

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援ばびび		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 24日		～ 2026年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22人	(回答者数) 21人
○従業者評価実施期間	2026年 2月 24日		～ 2026年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 12日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育や集団療育の内容を、子どもたちに合った内容、また子どもたちも指導員も楽しく取り組めるような内容にしている	新しい取り組みも積極的に取り入れ、マンネリ化しないように工夫している。	その日に来る子どもたちによって、少し難しくしたり、簡単にしたりとみんなで取り組めるように工夫している。
2	保護者の方の相談や悩みを聞いたり、子どもについての情報共有を行っている	必要に応じて面談する機会を設け、保護者の方とじっくり話ができるよう心掛けている。	送迎時に積極的に保護者の方とコミュニケーションを取り、信頼関係を深め、些細なことでも話せるようにしていく。
3	夏休みなど、園が休みの期間は事業所にてイベントを開催し、子どもたちが楽しめるようにしている	季節に合わせたイベント(食育・製作・遊び・お出かけ)を様々な内容で考えている。	新しい体験や経験ができるよう常に情報収集を行い、新しい療育内容を提供できるようにしていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の方や園と交流する機会が少ない	地域の方へ事業所の情報やイベントなどを発信する術がなく、招待できない状態である。	積極的に地域の方と交流する機会を設ける。情報発信ができるツールを見つけ、発信していく。
2	部屋の数が少ない。 療育グッズの収納場所が少なく、災害時に危険の恐れがある。	クールダウン用の部屋がなく、子どもが落ち着ける空間がない	収納を見直し、スペースを確保する。
3			